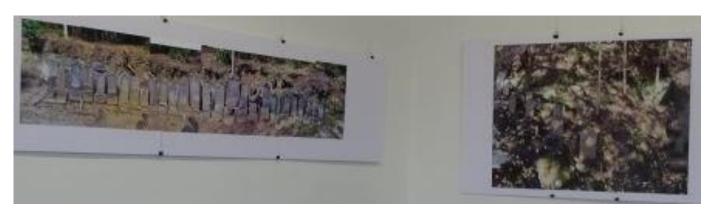
龍寶寺 玉縄歴史館ギャラリー企画展

『玉縄城下の石塔展』

令和4年1月7日~4月20日

玉縄歴史館 市民学芸員育成の実践的講座の調査・研究の成果展



玉縄藩松平陣屋家臣の龍寳寺の墓地 No.1~No.36石塔・石仏



玉縄藩松平陣屋家臣の龍寳寺の墓地 No.37~No.74の石塔・石仏



玉縄歴史館 開館時間: 9:30~15:30





主催:玉縄城址まちづくり会議 協賛: 龍寳寺

公益信託大成建設自然 · 歷史環境基金調査研究事業

*****文化庁

文化庁 文化芸術振興費補助金事業

「鎌倉・玉縄城址を活かす歴史ミュウジアム事業」

<石塔展企画の趣旨>

今回取り上げたのは墓塔や供養塔等に用いられた石塔です。玉縄城下では、過去にこのような石塔の調査は十分に行われていませんでした。石塔はその型式から何時の時代のものであるか、あるいはそれを造立した人々の信仰や所属した宗教集団などが分かります。例えば宝塔・宝篋印塔・五輪塔・石仏などの石塔の形式からはそれが示す信仰や所属した宗教集団等を探ることができますし、石塔の大きさや加工の精緻は造立した人々の地位や財政力・所属集団を、石塔に刻まれた年代や人名からはその時点での地域との関わりなどを明らかにする事ができます。この展示によって玉縄地域で暮らした人々の生活の一端をご想像いただければ幸いです。

鎌倉市教育委員会文化財課学芸員 玉林美男

<玉縄城下の石塔調査研究の報告>

平成 31 年度 文化庁文化芸術振興費補助金「鎌倉・玉縄城址を活かす歴史ミュウジアム事業」の、「市民学芸員育成講座」で、「地域史を学ぶ」調査研究を行いました。戦国時代と江戸期の玉縄藩時代の石塔を、玉林美男講師(鎌倉市教育委員会学芸員)に3年間にわたり指導を受けました。令和2年度は文化庁補助金で玉縄城主の菩提寺龍寶寺の松平陣屋家臣の墓地、令和3年は、『公益信託 大成建設自然・歴史環境基金』をうけ調査・研究を進めました。市民学芸員18名が協力し、74基の石塔のデータづくり、ミリ単位の測量、10回に及ぶ撮影、ドローンを使い墓地の景観を写し、新装なった玉縄歴史館ギャラリーで企画展「玉縄城下の石塔展」を開催します。

玉縄城址まちづくり会議 文化委員長 荒井幸子

龍寳寺にある玉縄城下の石塔74基



No. 1 \sim No. 1 2



No. 1 3 \sim No. 2 3



 $N_0.24 \sim N_0.36$



 $N_0.37 \sim N_0.48$



 $N_0.49 \sim N_0.60$



No. 6 1 \sim No. 6 7



 $N_0.68 \sim N_0.74$



戦国期の宝塔類

龍寳寺にある玉縄城下の石塔群のリスト

寸法単位:mm

番号	年号 (西暦)	種類・形態等	特徴ある石文	高さ	幅
1	享保 7(1722)	石仏		479	270
2		墓石 舟形		491	216
3	貞享 2(1685)	墓石 舟形		922	360
4		墓石 夫婦用		875	390
5		墓石 屋根付	本国上野 生国相州	984	*483
6	貞享 5(1688)	墓石	俗名 小幡	768	315
7	延宝 8 (1680)	墓石	本国上野 生国相模	825	324
8	延宝3 (1675)	墓石 破損	本国上野 生国相模	803	323
9	寛文元(1661)	墓石 変形	底光秋徹	531	250
1 0	寛文元(1661)	墓石 舟形		815	322
1 1	寛文 5(1665)	墓石	栄壽禅定尼 鋤柄	688	284
1 2	寛文 12 (1672)	墓石 舟形	貞心禅定尼 松嶋	719	308
1 3	承応 3 (1654)	墓石		809	320
1 4	慶安4 (1651)	墓石		962	343
1 5	寛文 11 (1671)	墓石		642	313
1 6	貞享 2(1685)	墓石		873	370
1 7	延宝 3(1675)	墓石		1,088	453
1 8	慶安2 (1649)	墓石	武田弥平次内儀	783	401
1 9	寛	五輪塔		1,150	343
2 0		墓石	辰推賢良居士	937	397
2 1	寛文	墓石	大円一通居士	745	311
2 2		石仏 観音	清肝禅定居士	695	301
2 3	寛文 3(1663)	墓石	家山栄郷禅定門	805	381
2 4		墓石 屋根付	小畠弥五兵衛重明	1,183	* 472
2 5	延宝 (1676)	墓石	法性妙通禅定尼	819	287
2 6		石塔	十月十七日	520	281
2 7	寛文 9 (1669)	石仏 観音	岡本台泰尉高次	1,033	425
2 8	延宝 2 (1674)	石塔	華岳壽栄大姉	719	327
2 9	宝暦 6 (1756)	石塔	玄性童男菩提	546	238
3 0	享保	石塔	早世桃林童子	431	224
3 1	明和 9(1772)	石塔	童子	459	243
3 2	正徳 2(1712)	石塔	地蔵仏	374	217
3 3	正徳 4 (1714)	石仏 地蔵	童子	494	300
3 4	享保 6 (1721)	石仏 地蔵	桂 禅童子	498	298
3 5		石塔		515	230
3 6		石塔		761	320
3 7	元禄 7 (1694)	石仏 地蔵	洞圓禅定門	625	315

番号	年号(西暦)	種類・形態等	特徴ある石文	高さ	幅
3 8	元禄 6 (1693)	石仏 観音	明悦信女	619	344
3 9	寛文7 (1667)	石塔	源補禅定門菩提	688	270
4 0	寛文2 (1662)	石仏 地蔵	見安人性禅定門	651	207
41	元禄7 (1694)	石仏 観音	全通禅定尼菩提也	648	297
4 2	寛文2(1662)	石塔	禅 嶺梅道雪菩提	618	265
4 3	宝永 5 (1708)	石仏 観音	春潮禅定尼	533	316
4 4	宝永 3 (1706)	石塔	原潮禅門 菩提	617	329
4 5	貞享3 (1686)	石塔	峯雲禅定門	663	304
4 6	貞享2 (1685)	石仏 地蔵	峯雲童女 福黒	573	296
4 7		石仏 地蔵	羪眠宗補禅定門	475	294
4 8	貞享 5 (1688)	石仏 観音	金貞童子	492	256
4 9	寛永 19(1642)	墓石	霜 童女	642	300
5 0	宝永	石仏 地蔵	霜 童女	487	253
5 1	宝永 2 (1705)	石仏 地蔵	利 禅	498	263
5 2		墓石		401	208
5 3	宝暦 12(1762)	石塔	會本源智性禅	512	246
5 4		石塔		760	353
5 5	寛文 11(1671)	石仏 観音	月空乃圓禅定尼	864	399
5 6	寛文 5 (1665)	石塔	金営宗 禅定門	914	394
5 7	延宝6(1678)	石塔	高室次郎元 重正	1,120	444
5 8	寛文 9 (1669)	石塔	高室 兵衛	1,119	448
5 9	寛文 5 (1665)	石塔	高室 傳兵衛	1,056	445
6 0		石塔	鐵宋軒顕山道樹居	708	273
6 1	慶安2 (1649)	五輪塔	心叟 安居士	1,431	426
6 2	寛永 13(1636)	宝篋印塔+	尼	1,556	460
6 3		五輪+宝篋印塔		1,530	372
6 4	寛永 21(1644)	宝篋印塔+五輪	月慶不心禅定尼	1,310	340
6 5		墓石	外岳清雲禅定尼	534	239
6 6			雪窓軒弧峰白無居士	715	271
6 7	寛永	宝篋印塔一法輪		714	271
6 8		石塔		845	346
6 9	元禄 7(1694)	石塔 舟形	深谿松山信士夫婦	801	335
7 0		石塔 舟形	禅 尼	751	336
7 1	慶安3 (1650)	石塔 舟形	空清安士禅定門	680	344
7 2		五輪塔		802	279
7 3		五輪塔		663	315
7 4	元禄 11(1698)	石仏 地蔵	越元童子	616	296

(注) 寸法計測範囲 高さ:台座の上から頂部まで(台座は測定不能なものがあるため除外) 幅:台座の上から頂部までのうち、傘石を含む最大横幅

石塔群に刻まれている年号が、何の時を表しているかは不明。(没年、建立年など)

1. 玉縄城の石塔調査:玉縄城重臣のやぐら見学(令和元年7月)







田中家の歴史とやぐらの説明



講師から「やぐら」とは何かの説明









一族を祀る「宝篋印塔の相輪」を発見、長さ 31 cm、幅最大 10 cmを測る <やぐらの中の調査>市民学芸員と夏休み体験ボランティアの清泉女学院生、北鎌倉女子学園生







戦国から江戸、明治の石塔群。入り口付近には明治時代の石塔が並び奥の方が古い石仏とわかる



貞享4 (1685) 阿弥陀如来



元禄 5 (1692) 観音



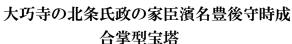
享保 20 (1730) 地蔵

2. 見学した鎌倉の主な石塔



龍寳寺玉縄城主3代(綱成・氏繁・氏勝)の宝塔







「伝上杉憲方逆修塔」多宝塔



久成寺の長尾定景一族の墓



東瓜ヶ谷の宝篋印塔

3. 特別な石塔群

三基の石塔は、寛永 13 (1636) ~寛永 21 (1644) の石文がありこの墓地の中では一番古く大きい石塔群です。五輪塔や宝篋印塔に装飾が付くかたちです。玉縄藩松平陣屋の身分の高い人が女性家族の供養に「尼」の石文を刻んで創建したと思われます。徳川幕府旗本の今川氏真(1614 死去)夫妻の墓も宝篋印塔の上に装飾がつく形です。江戸時代初期の大名や旗本の墓に多く見られるそうです。



寛永 13 (1636) ~ 寛永 21 (1644) の装飾が付く石塔



杉並区今川町の歓泉寺の今川家累代の墓地

4. 時代による石仏の比較調査 今和2年7月~令和3年12月

寛文年間から石仏が多くつくられます。地震・富士山の噴火、飢饉などで亡くした親族の1周 忌や3回忌に慰霊のために作られました。石文から個人情報が読み取れます。箱根外輪山内側の 密度の高い安山岩です。小田原早川の石工場で量産され、形式も似ています。

龍寶寺にある玉縄城の石仏一覧(年代順)

寸洼	224	Į,	•	
$\pi_{\mathcal{F}}$	ш	4\ <i>1</i>	-	mm

石塔群の番号	年号 (西暦)	種類・形態等	特徴ある石文	高さ	幅
4 0	寛文 2 (1662)	石仏 地蔵	見安人性禅定門	651	207
2 7	寛文 9 (1669)	石仏 観音	岡本台泰尉高次	1,033	425
5 5	寛文 11(1671)	石仏 観音	月空乃圓禅定尼	864	399
2 2	寛文	石仏 観音	清肝禅定居士	695	301
4 6	貞享2 (1685)	石仏 地蔵	峯雲童女 福黒	573	296
4 7	貞享	石仏 地蔵	兼眠宗補禅定門	475	294
4 8	貞享 5 (1688)	石仏 観音	金貞童子	492	256
3 8	元禄 6 (1693)	石仏 観音	明悦信女	619	344
3 7	元禄 7 (1694)	石仏 地蔵	洞圓禅定門	625	315
4 1	元禄7(1694)	石仏 観音	全通禅定尼菩提也	648	297
7 4	元禄 11 (1698)	石仏 地蔵	越元童子	616	296
5 0	宝永	石仏 地蔵	霜 童女	487	253
5 1	宝永 2 (1705)	石仏 地蔵	利 禅	498	263
4 3	宝永 5 (1708)	石仏 観音	春潮禅定尼	533	316
3 2	正徳 (1772)	石仏 地蔵		374	217
3 3	正徳4(1714)	石仏 地蔵	童子	494	300
1	享保 7(1722)	石仏 地蔵		479	270



No.40 寛文 2 (1662)



No.27 寛文 9 (1669)



No.55 寛文 11 (1671)



No.22 寛文



No.46 貞享 2 (1685)



No.47 貞享



No.48 貞享 5 (1688)



No.38 元禄 6 (1693)



No.37 元禄 7 (1694)



No.41 元禄 7 (1694)



No.74 元禄 11 (1698)



No.50 宝永No.51



No.43 宝永 5 (1708)



宝永 2 (1705)



No.32 正徳 (1772)



No33正徳4(1714)



No. 1 享保 7 (1722)